

2024 年（令和 6 年）の日本の年平均気温¹ 及び日本近海の年平均海面水温（速報）

2024 年の日本の年平均気温偏差²は+1.64℃（1～11 月の期間から算出した速報値）で、統計を開始した 1898 年以降、2023 年を大きく上回り、最も高い値となる見込みです（図 1）。また、最近 6 年（2019～2024 年）は、すべて歴代 6 位以内となる見込みです。日本の年平均気温は、長期的には 100 年あたり 1.40℃の割合で上昇しており、特に 1990 年代以降、高温となる年が多くなっています。また、地球温暖化の進行に伴い、このような記録的な高温が発生しやすくなっています。

2024 年の日本の平均気温の特徴として、夏から秋にかけては上空の偏西風が平年より北寄りを流れやすく暖かい空気に覆われやすかったこと、日本付近で高気圧の勢力が強い時期があったことなどから平均気温の高い月が多くなりました（日本の天候の詳細は別紙 1-2 に記載）。

また、2024 年の日本近海の年平均海面水温の平年差³は+1.46℃（1～11 月の期間から算出した速報値）で、統計を開始した 1908 年以降、これまで最も高い値だった 2023 年を大きく上回り、最も高い値となる見込みです（図 2）。日本近海の海面水温は日本の天候と互いに影響しあっており、長期的に上昇しています。

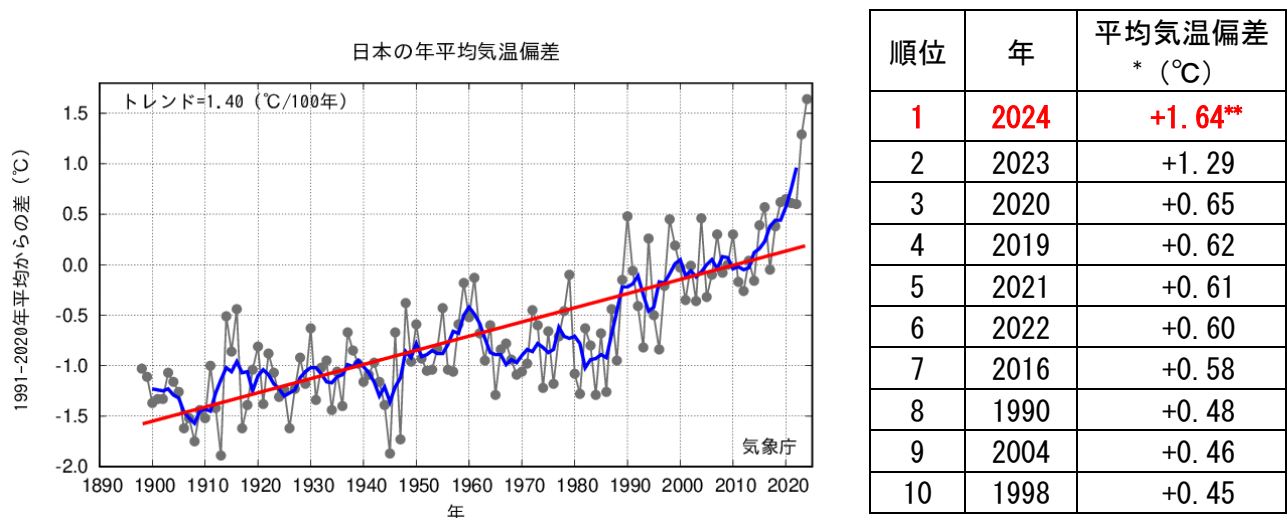


図 1 日本の平均気温偏差（年平均）の経年変化（1898～2024 年、速報）と順位表（上位 10 年）

黒線は各年の偏差、青線は偏差の 5 年移動平均値、赤線は長期変化傾向（この期間の平均的な変化傾向）を示す。偏差の算出には 1991～2020 年の 30 年平均値を用いている。2024 年は 1～11 月までの観測データによる速報値。

*：1991～2020 年の 30 年平均値からの偏差

**：2024 年の値は 1～11 月までの観測データによる速報値

¹ 日本の平均気温の偏差の算出にあたっては、都市化による影響が比較的小さく、長期間の観測が行われている地点から、地域的に偏りなく分布するように選定した 15 地点（※）の気象台等の観測値を採用している。

※網走、根室、寿都（すつつ）、山形、石巻、伏木、飯田、銚子、境、浜田、彦根、宮崎、多度津、名瀬、石垣島

² 平均気温偏差とは、脚注 1 の各地点ごとに、ある統計期間（ここでは 1991～2020 年）の気温の平均値からの差を求め、それらを全地点で平均した値。ただし、宮崎及び飯田については、観測所の移転による観測データへの影響を評価し、移転による影響を除去するための補正を行っている。

³ 平年差は平年値との差をいい、平年値は 1991～2020 年の 30 年平均値を使用している。

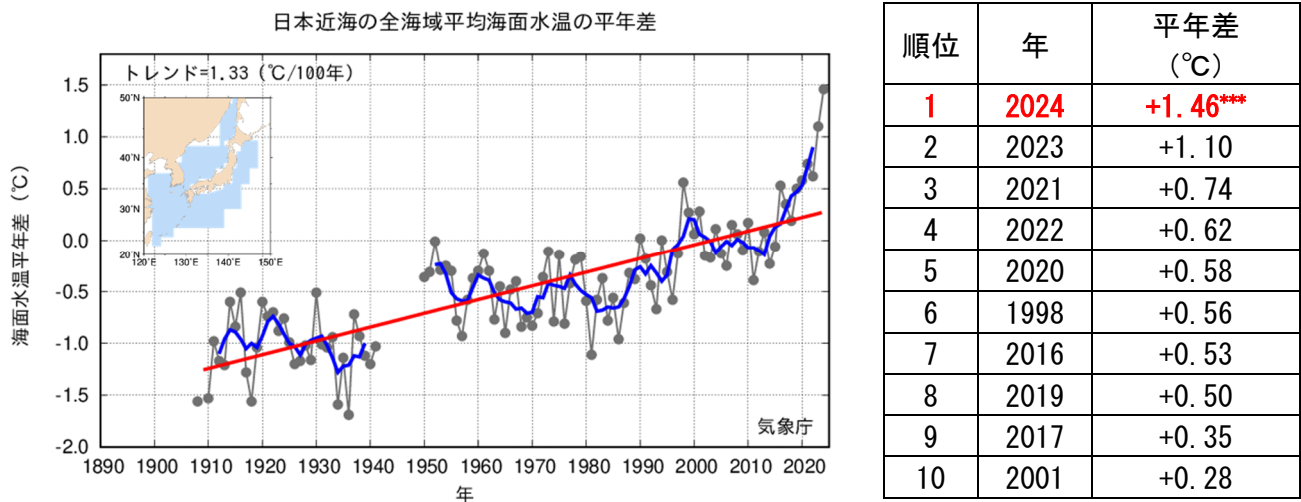


図2 日本近海の全海域平均海面水温（年平均）の平年差の経年変化（1908～2024 年、速報）と順位表（上位 10 位まで）

黒線は各年の平年差、青線は偏差の 5 年移動平均値、赤線は長期変化傾向（この期間の平均的な変化傾向）を示す。平年値は 1991～2020 年の 30 年平均値。2024 年は 1～11 月までのデータによる速報値。左上図は平均した日本近海の海域⁴を示す。

***：2024 年の値は 1～11 月までの解析データによる速報値

本資料は、2024 年 1～11 月までのデータをもとに、速報としてまとめたものです。

日本の年平均気温の確定値と年降水量は、2025 年 1 月初めにホームページ（下記 URL）で発表します。同ページでは、年別・季節別・月別の世界及び日本の平均気温を随時更新・掲載しています。また、日本近海の海面水温の確定値は、2025 年 3 月 5 日にホームページ（下記 URL）で発表します。

気温・降水量の長期変化傾向

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/index.html>



海面水温の長期変化傾向（日本近海）

https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/shindan/a_1/japan_warm/japan_warm.html



⁴ 歴史的な観測データの分布から設定した海域。